

長谷川研究室の紹介

長谷川の専門

- ・成人のうつ病に対する認知行動療法
 - ・精神病理学的研究(主として抑うつ・不安に関する研究)
- ※詳細については長谷川の個人ページを参照(<http://ahasegawa.com/>)

研究室の特徴

- ・心理的な問題が発生するメカニズムや長引くメカニズムなどについて、数量的なデータを用いて検討する。※研究テーマは認知行動療法と直接関連がなくても良い。
- ・対外的な場で評価される研究を行う。学会誌・国際誌に論文を掲載することを目標とする。
- ・(できれば)研究で培った知識、考え方、技術を生かして臨床実践を行う。

学会誌・国際誌への論文掲載を目標とする理由

- ・「修士論文」であるため、学会誌・国際誌に論文が掲載されるレベルの研究を行うことを求めたい。
- ・心理学の発展に貢献するため。修士論文自体は、他の人にほとんど読まれずに終わってしまう。
- ・宣伝になるため(大学院、研究室)。

ゼミの予定

- ・週1回行われるゼミでは、基本的には論文輪読を行う。毎回、誰かが論文を1本持参し、それを全員でまる読みし、ディスカッションを行う。※統計的な分析方法についても解説します。
- ・適宜、ゼミの中で修士論文の構想発表や途中経過の発表会を行う。
- ・個別指導を通して、早い段階から研究計画書や修士論文の添削と推敲のサイクルを繰り返す。
- ・進度が早いM1の院生は年度内にデータ収集を開始する。

過去の修士論文の研究題目

<2024年度修了生>

- ・ Post-event processing と時間知覚の関連
- ・ 母親の養育態度の世代間伝達：愛着スタイルや情緒的サポートの影響を考慮して
- ・ 大学生時における対人過敏傾向と自己優先志向は社会人の新タイプ抑うつを導くのか
- ・ 高校入試において生じた心的外傷後成長と高校入学後の友人関係の関連

<2023年度修了生>

- ・ 大学生における時間管理と精神的健康及び学業成績の関連に対する学習動機づけの調整効果
- ・ 社会的時差ボケが日中の注意力と眠気及び学業成績に及ぼす影響
- ・ 新型コロナウイルス感染症への感染不安と精神的健康の関連：看護師と大学生における差異の検討
- ・ 対人過敏傾向・自己優先志向が新タイプ抑うつと関連する過程：上司への信頼と組織機能阻害行動を媒介変数として

- ・不眠症状や概日リズムの障害と精神的健康との関連
- ・Body talk and body dissatisfaction in Japanese university students: Longitudinal study using the Japanese Body Talk Scale(邦題：日本人大学生におけるボディトークと身体像不満足感の関連：Body talk scale 日本語版を使用した縦断研究)

※以下、前任校(東海学院大学)

<2022 年度修了生>

- ・精神障害者に対する潜在的スティグマ的信念：うつ病と統合失調症に対するスティグマの差異
- ・LINE と Twitter を介した攻撃行動の規定因：学校段階における差異を考慮して

<2021 年度修了生>

- ・幸福感の重視と反すうの関連

<2020 年度修了生>

- ・両親の共感性、夫婦関係および養育態度が中学生の共感性に与える影響：親子のペアデータを用いた検討

<2019 年度修了生>

- ・失敗観が失敗後のコーピングと精神的健康に及ぼす影響
- ・子どもの不登校傾向が母親の精神的健康と家族機能に与える影響

<2018 年度修了生>

- ・自己開示動機が反すうと抑うつに与える影響
- ・大学生のひきこもり親和性が強まるメカニズムの検討 ※学生表彰を受賞
- ・家族機能が中学生の社交不安に及ぼす影響

<2017 年度修了生>

- ・大学生の両親に対する行動が家族関係に及ぼす影響
- ・大学生における自閉傾向と注意欠如・多動傾向が抑うつを導くメカニズム

<2016 年度修了生>

- ・自己反すう・自己内省が社交不安症状に与える影響
- ・Utrecht Grief Rumination Scale 日本語版の作成と信頼性・妥当性の確認
- ・大学生の共感的感情反応と対人行動：ポジティブな共感的感情反応とネガティブな共感的感情反応の特徴の比較

<2015 年度修了生>

- ・妄想的観念の影響と発生メカニズム：被害と微小の観念についての比較を中心として

- ・大学生の一般的信頼と日常的な対人関係：一般的信頼が心理的ストレス反応の低減を導くメカニズムの検討

<2014年度修了生>

- ・入眠困難者の入眠時認知活動におけるイメージと思考の特徴
- ・楽観性高群が用いるコーピングの特徴

研究室の学部の卒業生・大学院の修了生が筆頭著者である論文

<学術雑誌(国内学会誌、国際誌等)>

Ohno, H., & Hasegawa, A. (2025). Implicit but not explicit self-esteem decreases depressive symptoms in Japanese undergraduate students: Longitudinal study using the Name Letter Test. *Cogent Psychology*, *12*, Article 2456329.

豊村美咲・長谷川晃・大浦真一・山本哲也 (2024). LINE と Twitter を介した攻撃行動を測定する尺度の作成 ストレス科学研究, Advance online publication.

Ito, N., Hasegawa, A., Adach, M., Oura, S., Yamamoto, T., & Tomita, T. (2024). Body talk and body dissatisfaction in Japanese university students: Longitudinal study using the Japanese Body Talk Scale. *Body Image*, *51*, Article 101740.

Fujiwara, R., Hasegawa, A., Oura, S., & Matsuda, Y. (2024). Personality traits characterizing a new type of depression lead to stress generation in Japanese university students. *Journal of Psychopathology and Behavioral Assessment*, *46*, 116-125.

Takai, S., Hasegawa, A., Shigematsu, J., & Yamamoto, T. (2023). Do people who highly value happiness tend to ruminate? *Current Psychology*, *42*, 32443-32455.

Shimono, Y., Hasegawa, A., Tsuchihara, K., Tanaka, K., Matsuda, Y., & Kunisato, Y. (2022). Longitudinal association between autistic traits and affinity for hikikomori in Japanese undergraduate students. *Current Psychology*, *41*, 8842-8849.

Horibe, K. & Hasegawa, A. (2020). How autistic traits, inattention and hyperactivity-impulsivity symptoms influence depression in the nonclinical university students: Mediating role of depressive rumination. *Current Psychology*, *39*, 1543-1551.

矢嶋美保・長谷川晃 (2020). 家族機能が中学生の社交不安に及ぼす影響：日本の親子のデータを用いた検討 感情心理学研究, 27, 83-94.

下野有紀・長谷川晃・土原浩平・国里愛彦 (2020). 大学生用ひきこもり親和性尺度の作成 感情心理学研究, 27, 51-60.

田中奈津美・長谷川晃 (2019). 大学生の両親に対する行動と両親からのソーシャル・サポート, 家族機能, 抑うつとの関連 感情心理学研究, 26, 36-46.

堀井美里・長谷川晃 (2018). 共感的感情反応と向社会的行動および攻撃行動の関連：普段経験されている感情の影響を統制して パーソナリティ研究, 26, 283-286.

下野有紀・長谷川晃 (2018). 大学生の学業におけるストレス対処がひきこもり親和性に及ぼす影響：コーピング方略と援助要請行動を取り上げて 認知療法研究, 11, 80-91.

- 小澤崇将・長谷川晃 (2017). 自己反すうと自己内省が社交不安に及ぼす影響：4週間の間隔を空けた縦断的検討 感情心理学研究, 25, 17-25.
- 渡辺将成・長谷川晃 (2017). 楽観性と悲観性がコーピング方略に与える影響：重要性の異なる2場面を設定した上での検討 カウンセリング研究, 50, 73-80.
- 吉本貴博・長谷川晃 (2017). 大学生の一般的信頼が精神的健康の改善を導くメカニズム：信頼の解き放ち理論に基づく検討 感情心理学研究, 24, 92-100.

< 紀要 >

22 本 ※詳細については長谷川の個人ページを参照。